ティーチング・ステートメント

所属：北海道科学大学保健医療学部 看護学科
氏名：笹木 弘美

【責任】

保健医療学部看護学科において、精神看護学を担当し教育・研究活動を行なっている。教育活動は精神看護学関連科目（「精神看護学概論」、「精神看護学援助論」、「精神看護学援助論演習」、「精神看護学援助技術論演習」、「精神看護学実習」など）を担当し、さらには「家族看護論」「看護倫理」「看護研究法」「看護総合ゼミ」「卒業研究」「看護総合実習」「生活構築論」なども担当している。また、入試広報センターの主任業務を担当し、大学オープンキャンパス、入試業務に携わっている。

【理念】

学生には看護（精神看護学）の基本的な知識の獲得と専門領域の特性の理解を深めることを期待している。さらには、学生自身が主体的に考え、自らの言葉で説明できる力を養うことを大切にしており、それは学生自身の成長を促すことでもあり、看護者を目指すものとしての成熟につながると考える。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、学生が「自らの考えを伝えることができる」、「自ら学ぶ意識をもつ」、「自分を振り返ることができる」を目指し、取り組んでいる。

「自らの考えを伝えることができる」

授業では、教科書は事前に読んだ上で、講義に臨んでもらっている。精神看護学領域は、観念的な用語や事象が多いため、視聴覚教材（映画やドキュメンタリー）や当事者の実際の語り（手記や闘病記）に触れる機会を持つようにしている。その際に、学生が感じたことや考えたこと、疑問などを毎回、書いてもらい、次回の講義の際にフィードバックを行い、学生の考えを共有するようにしている。また、今後は実際に当事者に講義や演習に参加してもらい、直接的な会話やコミュニケーションを通して学生が感じたことや考えたことを自らの言葉で言語できるような講義の検討をおこなっている。

「自ら学ぶ意識をもつ」

学生自身が考えたり、疑問を持つことに意味を持たせたり、学ぶことの楽しみや関心が向けられるような授業を心がけている。他にも講義・演習内では学生の意見や疑問を共有する時間を確保したり、そこから派生するテーマや課題に言及したり、話題や関心の広がりをもつようにしている。

「自分を振り返ることができる」

レポートや課題などを通して、個別、および全体へ評価、及びフィードバックしてい

る。学びをより深めるために、レポート以外にもグループワークや課題発表を行い、自らの考えを修正し、深化できる機会を持ち、振り返ることからの学びも大切にしている。
　他にも学生自身の振り返りや学びが十分ではなかったり、習得に時間がかかる場合には、個々の学習状況に合わせて個別対応としている。特に学生の思考や理解に合わせた資料作成には工夫を試みている。

【評価・成果】
・講義・演習では視聴覚教材により理解が深まったとの学生の感想やレポートが多数あり、知識の観念的な理解だけではなく具体的な看護の実践活動としての理解が深まったと考えられる。
・授業アンケートによる評価では目標達成状況は「非常にそう思う」「そう思う」を合わせると80%以上の項目が多数あり、また、授業参観した教員より評価されている。また、自由記載にある意見を次年度に活用し、学生の学びの充実を図るようにしている。
・国家試験の高い合格率に貢献している。
・学生は実習体験を通じて、将来の就職先として精神科病院を検討したり、または新卒から精神科病院に就職する機会も増えている。

【目標】
・専門領域の最新の知識・技術の習得と教授を行う。また、資料や教材だけではなく、当事者の参加型の授業や演習も積極的に検討していく。
・遠隔授業も可能な現在、学生や当事者、医療関係者がディスカッションする場や企画をチャレンジしてみる。
・専門領域以外との交流や意見交換を行うことにより、より広い視野で精神看護学の専門性を改めて問い直す機会を持つ。
・学生が自主的、かつ主体的に課題に取り組めるような学科、学部でFDなどの企画運営をする。